

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100475
法人名	株式会社 森永商店
事業所名	グループホーム 月華堂
所在地	佐賀市北川副町新郷787番地 (電話) 0952-29-8718

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月31日	評価確定日	平成 20年5月7日

【情報提供票より】(平成20年3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 14 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	！ 人
職員数	5 人	常勤 5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	(有) 150,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,500 円		

(4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 91 歳	最低 86 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本庄診療所 志田病院 正島脳神経外科 高森歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れた一角に、近所の家並みに溶け込んだ、木造の落ち着いた、たたずまいのグループホームである。木の香りのする玄関に入ると、昔の調度品に囲まれた空間では、ゆっくりと時間が流れており、その中で一人ひとりにあった介護計画のもとで、介護が行われている。職員と入所者の垣根を取り去り、共に時間を共有する生活者であるとの視点は、職員一人ひとりに浸透しており、生活を共にする家庭的な雰囲気作りが図られている。また、ホームの代表者は地区の自治会長であり、職員が民生委員であるなど、地域との連携や結びつきが充分図られているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	事故報告書・ヒヤリハット報告書として、記録することの課題があったが、今回は事故報告書が整備され、事故やヒヤリハットが処遇の向上に活用できるよう取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の項目について、職員全員で意見交換しながら、自分たちの職務を振り返り、評価を行い、業務内容の共通理解が図られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の中で暮らすことについて、地域の代表や行政からも参加してもらい、利用者の実際の生活をよく見てもらいながら、運営推進会議をサービスの質の向上に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安への対応については、面会の折、その都度職員が伺い、丁寧に対応している。また苦情箱も玄関に設置されており、自由に意見を入れてもらうようにしている。また、出された意見は、職員間で話し合われてホームの運営に反映されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者が地域の自治会長であったり、職員が民生委員をするなど、地域のグループホームに対する理解はおのずと深まっている。ふれあいサロンや地域の拠点として地域との連携は充分に図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、職員と利用者の壁を取り除き、共に生活する「家族」をコンセプトに事業所としての理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議の中で、地域で暮らすこと、家庭的であることを繰り返し話し、理念の実践に向けての確認が行われている。家族と地域住民との交流を通して、地域密着型サービスの理念の普及に取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの代表が地域の自治会長を務めたり、職員の中に民生委員や近所の住民を採用するなど、地域との結びつきが強く、ふれあいサロン、老人クラブなどとの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の一つ一つの項目について、職員全員で意見交換しながら、自分たちの職務を振り返り、評価を行い、業務内容の共通理解が図られている。改善を行う部分は先延ばしにしないで、速やかに対応を全員で話し合いながら取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に入居者の生活を見てもらいながら、会議に参加してもらい、地域の方々や行政の意見を、率直に出してもらうことによって、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の自治会や民生委員会等を通して、市町村との結びつきを強くしており、ふれあいサロンなども定期的開催され、市町村と共にサービスの向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等は、その都度連絡を取り、家族が面会に来られた時に、細かく報告されている。職員体制や組織図・運営規定等に変更があった時も、ケアプラン、支援経過等日頃の生活の様子と共に毎月郵送されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に重要事項説明の中に、苦情の受け入れ方法を明記し、口頭でも十分に説明した上で、事業所内に苦情箱が設置されている。家族の面会に折にも、家族の意見を率直に聞くように配慮し、ケアプラン作成の会議に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの設立の時より、運営者と家族に馴染みの関係が出来ており、職員の異動や交替は最小限に留められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、積極的に参加するように管理者がバックアップしている。参加した研修の資料や通知についても会議の席上で、職員全員で内容の確認や学習を行い、職員の意欲向上を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のいくつかの施設と交流があり、お互いに見学したり、意見交換の場を作るようにされている。グループホーム協会の勉強会をはじめ、昔からのネットワークを大切にされ、切磋琢磨し、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は、本人が馴染めるように職員はコミュニケーションをとりながら、性格や好み、生活歴を大切にしながら、その方にあった介護計画を作るようにされている。家族にも出来るだけ面会に来ていただき、馴染みながらサービスを利用してもらうように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に食事をし、テレビを観て、遊び、畑仕事等する中で、お互いに学びあい、支えあう関係づくりがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を十分に聴いて、記録として蓄積されている。意思疎通の困難な場合でもご家族から聞き取るなど、本人にとってどんな生活が一番いいのか検討されている。就寝前のひと時に、一人ひとりとお茶を飲みながらゆっくり話す時間が設けられており、それぞれの思いを聴いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすために、本人、家族、職員、関係医療機関と充分話合うことにより、幅広い意見を取り入れながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期、長期で定期的に見直しが行われており、状態が変わった時は、家族や関係の機関と連携を取り話し合いの中から、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模な施設の利点を活かして、日程や行事、外出や外泊、食事の内容まで、一人ひとりの要望にも迅速に対応できる体制がとられている。また、敷地内の畑を活用することにより、活動の幅を広げられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の紹介による入所がほとんどで、主治医の変更はない。かかりつけ医による定期的な受診を行っており、専門医の受診も、家族の希望に沿って支援している。グループホームが近郊の医療機関と良好なネットワークをもっており、それを活かした支援体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や終末期に向けた方針について、家族や本人の思いの確認を取りながら、医療機関、スタッフと十分な話し合いを行い、全員で方針の共有がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を損ねるような声かけや対応は、全く行われていない。プライバシーの保護については、会議の席やいろんな場面で繰り返し周知徹底が図られており、職員は守秘義務に関する誓約書を書いている。メモや書類の持ち出しは、原則禁止されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者がそれぞれのペースで生活できるように、食事や入浴の時間も希望に沿うように配慮されている。入浴の時間や畑に出る時間など、自由に決められるように配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、料理の食材選びから調理方法まで、時には利用者から教えてもらったり、職員と一緒に進んで行われている。配膳や下膳もそれぞれ役割をもって行われている。野菜など自分達が育てたものを畑から収穫し、それが食事に対する興味や刺激になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴を行っているが、それ以外の曜日や時間帯の希望があればいつでも入浴できるようにされている。入浴を拒否される方には、声かけの工夫をしたり、違う職員が対応したりして、スムーズに入浴をしてもらうように支援されている。(ひのきの浴槽が好評である。)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や畑仕事、草むしりや散歩、手芸など一人ひとりの好みや能力に合わせて、やりたいことを楽しみながら行っている。家族や本人に生活歴を聞きながら、出来ることを見つけていく支援も併せて実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容院や買い物、家族との外出など自由に出来る。ホームの傍に畑があり、そこで畑仕事や草取りなど自由に出かけられるように支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、ベランダ、勝手口など鍵はかけていない。建物の構造が見渡しのきくつくりで、職員がさりげなく、利用者が何をされているのか把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回定期的に避難訓練が行われており、地域の消防団や近所の方の協力体制が出来上がっている。また、災害以外にもフラッシュライトや催涙スプレーなどの常備し防犯対策もとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し、栄養士がバランスを考えた食事量やメニューの調整を行っている。また利用者の状態に応じてミキサーや刻み食等食べやすくして出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物のつくりは、高齢者が馴染みの深い日本建築を意識した木造建築で、調度品など昔の落ち着ける物が置かれている。天上が高く懐かしい想いのする空間や、畑仕事をしたり、季節の漬物を漬けたり、思い思いの場所でゆっくりと過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥やテレビ、仏壇など使い慣れたもの、馴染みのものが自由に持ち込まれており、本人が居心地よく暮らせるように工夫されている。		